

日本子ども学会 News Letter No. 3

2012年8月16日発行

日本子ども学会事務局

第9回子ども学会議が開催されます

「子どもの生きる力を育む：エンパワメント環境づくりに向けて」



第9回日本子ども学会議まで残すところあと2か月となりました。

今大会は、「子どもの生きる力を育む、エンパワメント環境づくり」に焦点をあて、未曾有の災害から新たな地平に向けて、子どもたちが「生きる力」を最大限に発揮する仕組みづくりを考えます。本大会では講演とシンポジウムに加え、2つのワークショップにより、共感し、共創するエンパワメントの心髄を体感する企画を盛り込みました。保育、教育、保健、医療、福祉、芸術、安全管理など多彩な領域におよぶ実践者と研究者の知恵を学際的に架橋し、子どもたちのエンパワメント環境づくりを具体的に発信します。

多数の皆さまのご参加をお待ちしておりますので、専門家にとどまらず、子育て中の保護者の方々を含め、広くご案内いただけましたら幸いです。

(講演者、講演内容など、詳しいプログラムは大会ホームページをご参照ください)

第9回日本子ども学会議学術集会

大会長／安梅勅江（筑波大学大学院 教授）

事務局／筑波大学大学院人間総合科学研究科 徳竹健太郎

メール：kodomogaku.info@gmail.com

大会ホームページ／<http://square.umin.ac.jp/anme/kodom>

理事会について報告します

日時：2012年5月12日 14:45～17:00

場所：慶應義塾大学 三田キャンパス

出席者：小林登、安藤寿康、安梅勅江、一見真理子、一色伸夫、木下真、榊原洋一、坂上浩子、沢井佳子、志村洋子、高塩純一、竹林洋一、所真理子、仁木和久、長谷川真理子、箕浦康子、宮下孝広、劉愛萍、渡辺富夫

■主な報告事項

1) 2011年度の決算報告（別紙）

・理事会において承認されました。

2) 第9回子ども学会議準備状況

- ・一般演題に関して、初めての試みとして「優秀発表賞」を設けます。

3) 日本子ども学会設立10周年について

- ・日本子ども学会設立10周年は、第10回子ども学会議のほかに2つの記念行事を予定。
- ・東京おもちゃ美術館とともに、来年6月に「世界おもちゃサミット」を開催します。
- ・来年10月の子ども学会議を終えた後に、連続して「国際シンポジウム」を実施します。

4) 「チャイルドサイエンス Vol.8」発刊

- ・査読体制を整備し、投稿論文への対応をさらにていねいに行います。

5) 子ども学カフェの実施

- ・研究開発委員会の活動として、昨年のアンケートの結果を踏まえて、第1回子ども学カフェを開催しました。学会HP「子ども学サロン」との連動を検討中。

■審議事項

6) 2012年度 予算案 (別紙)

- ・理事会において承認されました。

7) 次期役員の変更について

- ・何らかの形で募った会員からの自薦他薦候補者と理事会で選定した候補者を合わせたリストから理事会が決定します。
- ・具体的な改選方法は、会員規約委員会を中心に検討し、本年10月の会員総会で説明します。

8) 東日本大震災に対する支援活動について

- ・継続的に領域架橋的な支援のあり方を検討および実践するために、調査や実践的な取り組み計画を立案し、段階的に部会の設立をめざすことが、武庫川女子大学河合優年教授から提案されました。

“子ども学カフェ”を始めました



日本子ども学会では、子ども学カフェを随時開催していくことになりました。レクチャーをしていただくのは、主に理事の先生方です。これは学術集会以外にも会員の交流の機会を増やし、もっと頻繁に情報を交換し、学び合い、子ども学について語り合いたいという会員の声を受けて企画したものです。

記念すべき初回の講師は、進化生物学者の長谷川真理子先生（総合研究大学院大学教授）でした。

テーマ：進化生物学から見た“子ども”と“思春期”

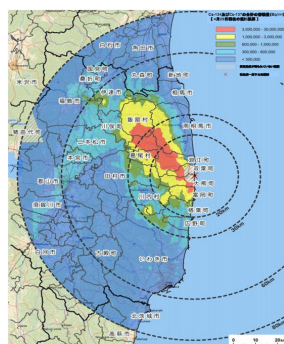
日時：5月12日（土）13：00～14：30

場所：慶應義塾大学三田キャンパス

抄録：ヒトという生物は、脳重が体重の2%にも達する、寿命が非常に長く、蓄積的で発展的な文化をもつなど、他の生物には見られないいくつもの特徴を持っている。離乳はしたが決して一人前ではない「子ども期」という生活史の段階をもつことも、そのような特徴の一つである。これらの特徴はみな、緊密に関連し合っている。「子ども期」がどのように特殊であるのかを、その次の生活史段階である「思春期」と合わせて検討する。

長谷川先生から、ヒト以外の動物には「子ども期」「思春期」はないという、大変刺激的話題が提供され、保育、教育、心理学、小児医学などのさまざまな分野の研究者の方々による質疑応答があり、カフェは大いに盛り上がりました。

今後も、このような充実した内容の「子ども学カフェ」を随時開催していきたいと思いますので、どのようなテーマで、どのような講演者からレクチャーを受けたいのかなど、ご要望がありましたら、ぜひ日本子ども学会の事務局までお寄せください。よろしくお願いいたします。



放射線の影響について学んでいます

日本子ども学会とCRNの共催により、本年3月および6月に「放射線と子ども」研究会を実施いたしました。放射線の影響を最も受けるのが、子どもであるということから、その健康被害はどのようなものなのか、また、自然環境や動植物に与える影響がどのようなものなのか、ご専門の先生方からお話をうかがいました。

本年度内に第3回の研究会を企画する予定です。

■第1回 放射線を正しく恐れるための知恵を学ぶ

日時：3月17日(土) 17:00～19:30

場所：新宿三井住友ビル 12F

講演1 放射線による健康被害のとりえ方

稲葉俊哉 (広島大学原爆放射線医科学研究所 副所長)

講演2 放射性物質の乳製品への影響

眞鍋昇 (東京大学 農学生命科学研究科教授)

■第2回 子どものリスクを最小限にするために

日時：6月23日(土) 16:00～19:00

場所：お茶の水女子大学 本館

講演1 食品中化学物質のリスクの考え方

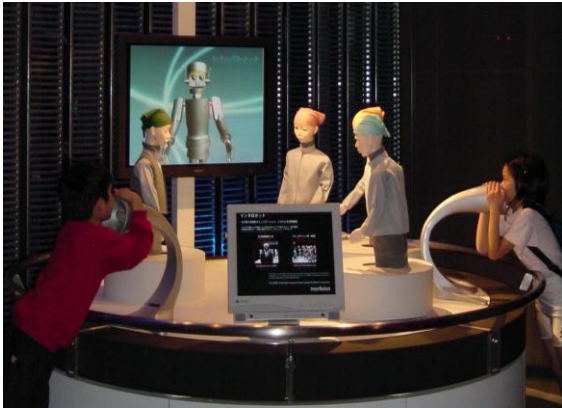
畠山智香子 (国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部第三室長)

講演2 保護者と考える、子どもの放射線影響

島田義也 (放射線医学総合研究所 発達期被ばく影響研究グループリーダー)

日本子ども学会は、設立 10 周年を迎えます

2013 年に日本子ども学は設立 10 周年を迎えます。毎年、多彩なテーマで学術集会を開いてきたことで、研究者が領域を超えて交流する学会として発展してきました。来年は日本国内にとどまらず、世界の人々とともに子どもの問題を考えていきたいと思っています。年一度の学術集会だけではなく、関連行事として「国際シンポジウム」と「世界おもちゃサミット」の 2 つを行うことになりました。会員の皆様のご参加とご協力をよろしくお願い申し上げます。



1) 第 10 回子ども学会議 「遊びと学び—おもちゃ、ロボット、メディア— (仮題)」

ヒトと機械をつなぐ、ヒューマンインタフェースの研究者である岡山県立大学の渡辺富夫先生が大会委員長。おもちゃ、ロボット、メディアなど、現代の子どもたちが発達期に接触するものと、どのような関係を結んでいくのか。また、それを使ってどのように遊ぼうか学ぶのかを考えます。

日時：2013 年 10 月 12 日（土）、13 日（日）
場所：岡山県立大学（岡山県総社市窪木 111）

2) 国際シンポジウム

キングスカレッジ（ロンドン）の子ども研究者、オーストラリアの研究者などを招き、「子どもの人権」をテーマの一つにします。日程としては、子ども会議の翌日の 10 月 14 日（月・祝日）、場所は岡山県内を予定しています。



3) 世界おもちゃサミット

世界の有名おもちゃメーカーのスタッフやおもちゃの研究者が集まり、世界初のおもちゃ会議を実施します。おもちゃをめぐって、遊び、アート、環境、福祉などのテーマについて語り合います。

プログラムのひとつとして、遊びやおもちゃを通して、世界を平和に導くための意見交換の場を設け、「おもちゃ平和宣言」を発表します。また、海外のおもちゃメーカーのスタッフが、自社製品を使ってワークショップを行います。

共催の東京おもちゃ美術館は、東京都新宿区の元小学校を使って、おもちゃのための美術館を運営する NPO 団体です。館内には、良質のグッド・トイが並べられています。

共催：東京おもちゃ美術館、日本子ども学会
日時：2013 年 6 月 9 日（日）
場所：早稲田大学井深大記念ホール